



運動会

2021年10月23日



お
ご
お
り

第2号
発行 小郡小学校PTA
編集 PTA広報委員会
印刷 片山印刷(有)



スローガン
みんなで協力し
力を出しきろう!!



被爆体験講話

一昨年の長崎平和祈念式典で「平和の誓い」を話された、山脇佳朗さんからの体験を聞かせて頂きました。子どもたちと同じ小学校六年生のときの体験。その時の山脇さんの気もちを想像しながら、心で聴くことができました。

1組

私たちは被爆体験者である山脇佳朗さんに当時の話を聞くことができました。

山脇さんは原爆が投下された場所から2キロほど離れた場所まで被爆されました。その時のまじの様子や、お父さんとの最後の別れのことなど、話すこともつらいようなことを詳しく話してくれました。山脇さんの「原爆は人を3度殺した。」や「この町は終わりだ。」という言葉が忘れられません。もし、自分が十一歳の時にこのような体験をしたらと思うと、とても悲しく、心が苦しくなりました。しかし、山脇さんは私たちのために苦しくつらい体験をていねいに話してくださいました。だから私たちも、原子爆弾のことやその被害で人々がどんな思いをしていたのかなどたくさんの人に伝えていかなければならないと思いました。

原子爆弾が投下されて七十六年が経ちました。その時のことを知っている人も少なくなってきました。私たちはこの貴重な経験を必ず伝えていく、それが平和な世界へとつながると思います。

2組

私は被爆体験者の山脇さんの話を聞いて、戦争が終わって何十年たった今でも、入院したり癌になったりすることです。苦しんでいる人々がいることを知りました。お話の中にあつた、「原爆は三人を殺した」という言葉が心に残り、今後たくさんの悲しみや苦しみを感ぜさせたい。戦争を絶対にやめてほしい。と改めて感じました。

何十年たった今でも、入院したり癌になったりすることです。苦しんでいる人々がいることを知りました。お話の中にあつた、「原爆は三人を殺した」という言葉が心に残り、今後たくさんの悲しみや苦しみを感ぜさせたい。戦争を絶対にやめてほしい。と改めて感じました。屋なのに家の中に青白い光が入ってきたこと、いつ起こるか分からない戦争の当時の体験を聞いて、実際に体験してはいない私たちも恐ろしく感じ、当時のその場に自分があるような気持ちになりました。この感覚をたくさんの人たちに伝え、戦争を絶対にしない世の中にしていきたいです。また、山脇さんが戦争中にお父さんを亡くしたというお話を聞き、大切な人を失うことはとても辛いことだから、この世から原子爆弾を無くし、平和な世の中を目指していきたいと思えました。私の身の周りには大切な人や支えてくれる人たちに自分を感じたことを伝えていきたいと思えました。

3組

十一さいで被爆した山脇さんは、原爆が落ちた後のまじの様子や原爆投下当日に爆心地のすぐそばの工場に働きに行ったお父さんを失った言葉に表せないほどの悲しみを話してくれました。そのなかで、一番心に残ったのは、山脇さんが最後に言われた、「核兵器は絶対に使ってはいいない。」

「核兵器は絶対に使ってはいいない。」という言葉です。今までは、原爆に関わった人や被害を受けた建物のことを学習したり写真をみたりして、核兵器のおそろしさを分かっていると思っていました。しかし、山脇さんの話を聞くと、学習で習ったときよりも、大きな被害にあつた人を見た悲しみ、思い出すのもつらいことが手にとるように分かって、山脇さんの言葉の重みを心から感じました。

いろいろな想いをもちながらも、話してくれた山脇さんに感謝して、今度は私たちが伝える側になって、思いをつなぎ、核兵器のない世界にして、少しでも被爆者の人たちの救いになりたいです。



旅行

月5日・6日

in 長崎



伝えたい 平和のメッセージ

実際に長崎に行って、見て、聞いて、考えた子どもたちから、みなさんに伝えたい平和のメッセージです。

1組

戦争は、まだ生きられるはずだった人たちの命を奪ってしまふ、とても恐ろしいものです。戦争に使われた原子爆弾は、七万三千八百四十八人の命を奪い、建物にも大きな被害を与えました。そんな原子爆弾や核兵器はまだ世界に一万三千発以上も残っています。あんなにたくさんの人を殺した核兵器がまだ残っていると知って、おかしいと感じました。私たちは戦争のない平和な世界にしたいと思っています。だから、戦争の恐ろしさについて正しく知り、少しでも多くの人に伝えていきたいと思えます。これからは、みんなで戦争の恐ろしさ、平和の大切さについて考え、一人ひとりができるところから行動していく世界になってほしいです。

2組

私は、もう二度と戦争はしてはいけな いと思えました。戦争を体験した人は、戦争が終わって町が元通りになつても、戦争で傷つけられた心は戻ってこないと言っていました。その言

他にも! 楽しい思い出がたくさん!

1組

修学旅行では、普段できないような体験がたくさんできました。ホテルの食事は洋食から和食まで用意してあり、どれもとてもおいしかったです。部屋もきれいで、お風呂では疲れをいやすことができました。用意して下さったホテルの方々にも感謝しています。

二日目のハウステンボスでは、お土産屋さんでおそろいのキーホルダーを買ったり、一緒に声をかけあつてゲームをしたりして、絆がより深まった気がしました。

2組

私は修学旅行でたくさん思い出をつくることができました。ハウステンボスでは、班の人とたくさん遊ぶことができましたし、一緒に買い物をするのができたので、すごく楽しかったです。中でも一番楽しかったことは、班



フィールドワーク



雨の降る中ででしたが、本物の戦争の跡を見学し、子どもたちはその恐ろしさを「実感」していました。

訪問場所

- 平和公園
- 当時の地層
- 如己堂
- 浦上天主堂
- 山里小学校
- 医大門柱

1組

平和公園には平和を願ってつくられたものがたくさんあります。私たちはここで平和について学び、実際に見たことできろいろな思いをもつことができました。

平和祈念像はとても大きく、像の天を指す右手は戦争の恐ろしさを表し、水平に伸ばした左手は平和の大切さを、軽く閉じた目は戦争犠牲者の冥福を祈っています。私たちはこれを見たとき、長崎の人たちの「平和を大切にしたい」という気持ちが伝わってきました。

平和の泉にはきれいな水が流れていましたが、原爆が落とされた後は油の浮いたような水しかなく、人々はそれを飲むしかありませんでした。この泉には天国ではお腹いっぱい水を飲んでほしいという願いが込められています。それを聞き、人々の苦しみや悲しみが痛いほど伝わってきました。

これから、誰一人として、こんな思いをしないでいいように私たちが平和な世の中をつくりていきたいと思えます。

2組

私はフィールドワークに行つて、原爆の被害や防空壕などを自分の目で見たり、感じたりしました。フィールドワークでは、山里小学校や浦上天主堂など、戦争に関係のある場所をたくさん見ました。事前の平和学習とは全然違つていて、実際に見た方がより原爆の恐ろしさを感じました。浦上天主堂は再建され、きれいな見た目になっていたけれど、爆風の被害にあつた一部が残つており、こんなに大きな建物が壊れてしまうほどの爆風だったのかと実際に見て感じました。山里小学校は、今は私たちの通う小学校と同じようになっています。当時、私たちが同じ小学生が過ごしていたことや犠牲になった小学生のことを思うと胸が痛くなりました。

フィールドワークを通して、戦争の被害を自分の目で見て、感じながら知ることができました。戦争の恐ろしさを実感することができたので、これからもっと平和について考えていきたいです。



修学

2021年 10



3組

私たちは、修学旅行で原爆のことをもっと学習するためにフィールドワークをしました。

フィールドワークでは、山里小学校や如己堂などを歩いてまわりました。そのなかでも心に残つたのは、最初に行つた医大門柱です。医大門柱は、今の長崎大学医学部の入口にあり、爆心地からは約六百メートルはなれています。なぜ心に残つたかというと、三トンもの重量があつた医大門柱が、台座から九センチメートルもずれていたからです。実際に自分の目でみることでできたからこそ、医大門柱や他のものから原爆のおそろしさを改めて知ることができました。原爆遺構をみに行ったことで、私のなかに「原爆遺構を守つていきたい。」という気持ちが芽生えました。さらに、長崎にこんな被害を出した原子爆弾や原子爆弾を生み出すきっかけとなった戦争が、早く世界からなくなつてほしいと思えます。なので、このことを家族や友達に伝えて、「戦争をやつてはいけません。」という思いを広げようと思えます。



葉から、もうこのような思いをする人を生み出さないためにも、戦争は絶対にしてはいけないと思いました。二度と戦争を起さないうために、家族や下級生に戦争の恐ろしさを伝えていき、戦争がどんなに恐ろしいことかを、世界中のみんなに伝えたいと思えました。そして、この世の中を戦争やいじめのない、明るく平和な世の中にしたと思います。そのためには、相手の気持ちを考え、気付き、行動することが大切ではないかと思えます。みなさんも平和についてもう一度考えてみてください。

3組

修学旅行で原子爆弾による被害をくわしく知り、私たちは戦争や核兵器によるぎせい者を減らし、平和を維持していきたいです。

戦争をしても、誰も得をしません。たくさん大切な人や物を失つてしまいます。ですが、平和だとだれも悲しまずにすみません。私たちがだけでは、戦争や核兵器をとめることは不可能かもしれませんが、身近なところから取り組めることもあります。例えば、けんかをしないことです。けんかは小さな戦争と呼ばれているので、このような小さなことでも気をつければ、世界は少しずつ平和になっていくと思えます。だからこれから、私たちができることから実行していきたいです。



の友達と観覧車に乗った事です。以前、家族で乗った時も楽しかったけれど、クラスの友達と乗るのもとても楽しかったです。お土産を買うときも、班のみんなと楽しく買い物ができました。ホテルの部屋では、トランプで遊んだり、お話をしたりしました。あまり話したことがない人とも仲良くなることができました。のでも嬉しかったです。小学校生活もあと少しで終わってしまうけれど、修学旅行と同じような思い出を増やしていきたいです。

3組

「オランダ街での出来事」私たちが行ったハウステンボスは、オランダの街を表現しているそうです。心に残つたことは二つあります。一つ目は、ドムトールンというハウステンボスで一番高い場所です。そこで、カラフルなハウステンボスを一望できたことが心に残りました。地上では、建物しか見えなかったけど、登るといろいろな色の屋根やきれいな花畑などがみえて、いやさなりました。二つ目は、ピッケンピッケンという佐世保バーガーのお店で、初めて佐世保バーガーを食べたことです。今まで食べたバーガーより大きかったのでも、おなかいっぱいになり、おなかも心も満足しました。ハウステンボスでの出来事を通して、社会でのルールを守り楽しむ大切さに気づけて、いい経験になりました。



1年生 自分の心や体を 守るための方法を 学びました



十一月十六日十八日に1年生は各クラスごとにCAPセミナーを受けました。このワークショップは、いじめや虐待など様々な暴力から自分の心や体を守るための予防プログラムです。「安心」「自信」「自由」が一人一人にあること、この三つの権利を守ることがとても大切なことであることなど、劇を通して分かりやすく教えていただきました。嫌なことをされた時には「いや。」と言うことや、困った時には、友だちや先生、家族に相談するとよいということを学びました。劇の中に参加して、三つの権利が脅かされた時に、具体的に何と行うのか、誰にどのように相談するとよいのか、ということを演じ体験しました。相談すること自体、経験のない子どもにとってはよい練習になりました。自分や友だちの権利を守る優しい人になっていけるよい学びを得たのではないかと思います。

2年生 おもちやまつり



生活科の学習で、1年生を招待して「おもちやまつり」をしました。昨年は、楽しませてもらう側だった子どもたち。今年は、2年生として1年生を楽しませようと、遊びを考え、遊びを進めるための運営の練習に一生懸命励みました。おもちやまつりでは、最初は緊張している様子の2年生も、何グループも進めていく中で少しずつ慣れていって、かっこいい2年生の姿をたくさん見せることができました。「最初の一回目の説明は緊張したけど、二回、三回、何回もやると緊張していたのを忘れるくらい楽しかったです。」「作るのが大変だったけど、いっぱい遊んでくれたのがうれしかったです。1年生たちがいっぱい遊んでくれてありがたいです。」 子どもたちは大変だった中で、お姉さん、お兄さんとしてたくさん喜びを感じることができました。

3年生 小郡市を調べよう



社会科や総合的な学習の時間で小郡市のことを学習しています。一学期は、校区探検に行きました。小郡小校区には、お店が多いこと。住宅がたくさんあることなどがわかりました。二学期は、人権教育啓発センターへ見学に行きました。子どもたちは、職員の方の話を熱心に聞いていました。人権センターは、みんながもっと安心して生活したいという声が集まって建てられたと知りました。人権センターで働く方は、人権の大切さをみんなにわかってほしいという想いをもって働かれています。子どもたちもその願いに応えようと様々な場面で自分達の行動について考えています。例えば、友達への言葉遣いです。何気ない一言が相手を傷つけてしまうことがあります。自分の周りの人や友達を大切にできているかな。相手の気持ちを考え、行動できているかな。とその都度振り返るようにしています。

4年生 「みんなが安心できる社会にするために」



総合「小郡☆出会い☆発見」の学習で、車いすを使って生活している東川結さんと出会いました。結さんは、「おりひめ」という東京のカフェで動くロボットを小郡からリモートで操作して、接客をする仕事をしています。そして、持ち前の明るさを生かし、カフェに訪れるお客さんを楽しませています。今後は、お金を貯め、海外で生活をし、デザイナーとして個展を開くことを夢に持っています。子どもたちは、東川結さんとの出会いを通して、夢に向かってチャレンジする素晴らしさを実感することができました。また、今まで持っていた「車いすで生活していたら、できないことがたくさんあるのではないかな。」というイメージを変えました。しかし、不便点があるのは事実です。エレベーターが無い、段差が多い、多目的トイレが少ないということも、車いすに乗るといっても、車いすに乗る体験を通して実感しました。また、不便さは「もの」に限らず、自分のことばかり考えてしまう「心」によっても生み出されています。これらにも気がつきました。そこで、これらの不便さを解消するために、自分には何ができるのかと考え始めたところでした。今後子どもたちと一緒に考え続けていこうと思います。

5年生 ひと粒の米から



5年生は、総合「ひと粒の米から」の学習で、今年も米作りを体験させて頂きました。一学期から米作りについて学んできた子どもたち。感染症拡大防止の観点から制限の多い中でも、米作りの苦労を調べたり、ペットボトルで稲を育てたりしてきました。しかし、実際の体験から学べることには、やはりかないません。稲を刈る瞬間のザクツという音や感触、少し乾いた自然のにおいに、実をいっばいにつけた稲のずっしりとした重み。そのどれもが、子どもたちにとって新鮮だったようでした。帰り道も「楽しかった」「米ってすごいね」とみんな話していました。何とか子どもたちに体験を、協力してくださったゲストティーチャーの松尾さんや、稲刈りを教えてくださった区長さん方に大変感謝しています。その気もちは、代表でお礼を伝えた子の「今日、手伝ってもらって稲刈りができて、お米ひと粒ひと粒を大切に食べたいと思います。」という言葉にも表れていました。

PTA活動を振り返って



PTA会長 藤江 浩太郎 日頃よりPTA活動にご協力頂き、誠にありがとうございます。会長として一年目を終えようとしております。 沢山の支援者がいる中で、活動は、大変貴重であり、素晴らしい一年間を過ごす事が出来ました。 子供たちを取り巻く環境は日々変化し、安心、安全な学校生活を送る為にはまだまだ課題が沢山あります。学校、家庭、地域が一体となり進化させていきたいと考えております。 さて、6年生は4月からいよいよ中学生になります。小学校で培った事を存分に発揮して良い中学校生活を送って頂ければと思います。 最後になりますが、まだまだ予断を許さない状況が続いております。保護者の皆様におかれましては、ご自愛頂き、子供たちを温かく見守って頂ければと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。